

第2学年 体育科学習指導案

令和元年12月6日（金）

1 単元名 器械運動「マットあそび」

どうぶつになってあそぼう！マットゆうえん地

2 授業づくりの構想

（1）運動の持つ特性

- 器械・器具を使つての運動遊びの楽しさに触れることができる。
- 回転、支持、逆さの姿勢、手足での移動などの基本的な動きや技能を身に付けることができる。
- 運動遊びを楽しく行うために、簡単な遊び方を工夫するとともに、きまりを守り誰とでも仲良く運動遊びをすることができる。
- 運動遊びをする場や、器械・器具の安全に気を付けて、楽しく運動することができる。

（2）児童の実態

- 男子16名女子13名、計29名
- 多くの児童は、体を動かすことに関心が高く、できるようにになりたいという思いをもっている児童が多い。
- いろいろな友達に積極的に関わることのできる児童が多い。話合いでも、進んで自分の思いや考えを伝えようとするができるようになってきた。
- ICT機器を使って、動きや準教科書の挿絵を提示することで、積極的に良い動きをまねしたり、技のポイントを確認したりすることができた。

（3）運動（学習内容）の系統性

第1・2学年

B 器械・器具を使つての運動遊び

イ マットを使った運動遊び

マットを使った運動遊びでは、その行い方を知るとともに、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶこと。

第3・4学年

B 器械運動

ア マット運動

マット運動では、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技をすること。また、基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりすること。

第5・6学年

B 器械運動

ア マット運動

マット運動では、その行い方を理解するとともに、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすること。また、選んだ技を自己やグループで繰り返したり、組み合わせたりすること。

（4）単元の目標

【知識及び技能】

マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

マット遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

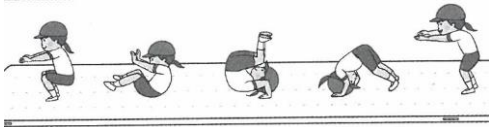
○グループを作り、お互いに見合う場を設定することで、友達同士で技のポイント見つけたり、技を教え合ったりすることができるようにする。
○児童の運動の様子を撮影し、ＩＣＴ機器を使って確認させることで、動きのポイントを見つけることができるようにさせる。
○少人数のグループで取り組むことにより、１人１人の運動量を確保する。
○準教科書を活用し、動きのポイントを押さえたり、振り返りを行ったりすることができるようにする。

	1	2	3	4（本時）	5	6	7
主なねらい	器械・器具の使い方やきまりについて知ろう。	いろいろな技をやってみよう。	前転がりの技のポイントを見つけよう。	後ろ転がりの技のポイントを見つけよう。	いろいろな技の練習をしよう。	技の発表をしよう。	マット遊園地で楽しもう。
核となる学習内容	- 準備や片付け - 感覚づくりの運動 - 動きのイメージ	- 感覚づくりの運動 - 回転、支持の運動	回転の運動	回転の運動	回転、支持、逆さの姿勢の運動	回転の技の発表	場を選んでいろいろな動きに取り組む
学習活動【わかる・できる・ためす】	- オリエンテーション（準備、片付けの仕方） - 場と用具の準備 - 感覚づくりの運動 - 本時の学習のまとめと振り返り - 場と用具の片付け	- 場と用具の準備 - 本時の学習の流れとめあての確認 - 感覚づくりの運動 - 本時の学習のまとめと振り返り - 場と用具の片付け	- 場と用具の準備 - 感覚づくりの運動 - 本時の学習の流れとめあての確認 - ＩＣＴ活用による技のポイントの気づき - グループでの教え合い - 本時の学習のまとめと振り返り - 場と用具の片付け	- 場と用具の準備 - 感覚づくりの運動 - 本時の学習の流れとめあての確認 - ＩＣＴ活用による技のポイントの気づき - グループでの教え合い - 本時の学習のまとめと振り返り - 場と用具の片付け	- 場と用具の準備 - 感覚づくりの運動 - 本時の学習の流れとめあての確認 - 技の練習、教え合い - 本時の学習のまとめと振り返り - 場と用具の片付け	- 場と用具の準備 - 感覚づくりの運動 - 本時の学習の流れとめあての確認 - 技の発表 - 本時の学習のまとめと振り返り - 場と用具の片付け	- 場と用具の準備 - 感覚づくりの運動 - 本時の学習の流れとめあての確認 - 技の発表 - 本時の学習のまとめと振り返り - 場と用具の片付け
評価	知	①	④		③	①	①・②
	思		①	②	①		
	学	①		②	①	①	①

具体的な評価規準	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	①マット遊びの行い方を知っている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がることができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをすることができる。 ④体を反らせて遊ぶことができる。	①器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫している。 ②考えたことを友達に伝えることができる。	①マット遊びに進んで取り組んでできる。 ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。

3 本時の学習（4／7）

- (1) 目標 後ろころがりのポイントを意識して、練習に取り組むことができる。【知識及び技能】
後ろころがりのよいポイントに気づき、友達に伝えることができる。【思考力・判断力・表現力等】
順番やきまりをまもり、マット遊びに進んで取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】
- (2) 準備 マット、わたしたちの体育、ホワイトボード、タブレット
- (3) 展開

学びの段階	学習活動と予想される児童の反応	○指導上の留意点・支援 ★評価（方法）
ひらく	1 場と用具の準備をする。	○マット持つところやマットの耳をしまうことを徹底させることで、安全に運動することができるようにする。
わかる	2 準備運動をする。	○大きなゆりかごとゆりかごの違いから、手が後ろ転がりのポイントであることに気付かせる。
	3 本時の流れとめあてを確認する。	○今までの技のポイントを全体で確認することで、動きのポイントを押さえて運動できるようにさせる。
	㊟ 上手な後ろころがりのポイントをつたえよう。	○ゆりかごから後ろ転がりにつなげるよう声をかける。
見つける	4 課題を解決するために練習する。 (1) 技を練習する。  頭の後ろ辺りがマットに着くかな。 足を閉じて回った方がいいかな。 ゆりかごから回れそうだな。 後ろ転がりが上手になるように友達にどんな声をかけたかな。	○坂のあるマットの場を設定し、後ろ転がりの勢いをつけることができるようにする。
挑戦する	(2) 技のポイントを意識して練習する。 手をぱっとマットに着くといいよ。 おへそを見て、くるっと回って。 最初に勢いをつけて。 1、2の3!!!	○タブレットで動きを撮影し、動きの課題となるところを見つけることができるよう支援する。
振り返る	5 学習のまとめをする。 〇〇さんにポイントを教えてもらって、できるようになりました。 手をマットにしっかりと着くと後ろ転がりができるようになりました。	○よい声かけをメモしておき、全体で共有してから（2）の技の練習に取り組ませる。 ★後ろころがりの良いポイントに気づき、友達に伝えている。 【思・判・表】（観察） ○手の形の紙を置いたり、坂道を作ったりすることで、苦手な児童でも回ることができるようにする。 ○全体で振り返りを発表させることで、技のポイントなどを共有できるようにする。